

はじめに、御来賓の皆様、鈴木典比古学長、そして教職員の方々に感謝申し上げます。このような大変貴重な機会を与えていただき、心から光栄に思います。また、皆さんの前にこうして立つことができたのも、家族や友人、大学時代の恩師の支えあつてのことです。この場を借りて御礼申し上げます。本日、国際教養大学専門職大学院に入学した國友愛珠と申します。私は、今日、夢への大きな一歩を踏み出しました。これから日本語教育実践領域で学び、日本や日本語に関する知識だけではなく、日本語教師としての実践的な経験を積んでいきたいと考えております。国際教養大学は、夢や目標を実現しようと進む私たちにとって、理想的な環境であると確信しております。

私は小さい頃から、海外で働きたいと夢見ていました。しかし、具体的に一体何をしたいのかが分らずにいました。3年前、デンマーク留学中に日本語教育に関心を持ちました。大学でデンマーク語を専攻していたので、語学上達のために留学したのですが、そこで初めて自分が“日本人”であることを強く感じる経験をしました。日本を一步出ると、どこにしようが、何語を話そうが、周りの人にとって私は“日本人”でした。彼らは私に日本の様々なことを尋ねてきました。例えば政治、文化、歴史や宗教に始まり、教育制度やサムライ、きりぎりす、みゆみゆについてまで、質問は多岐に渡りました。日本に興味関心をもつ彼らに出会えて、とても嬉しかったのと同時に、自分自身に深く失望することもありました。即座に答えられない質問を受ける度に、自分が生まれ育った国に関していかに無知であったかに気付かされたからです。

デンマークから帰国したのち、私は大学での勉強と並行して、日本語学院で日本語を学び始めました。学ばば学ぶほど、日本語の謎や面白さにはまっていきました。語学とは切っても切れない関係にある文化や歴史も同時に学び直し、日本という国の奥深さに夢中になりました。私は、天職のようなものをずっと外に求めていましたが、一度海外に出たこの経験が、それはどこかで見つけてくるものではなく、自分の内にある種を育てることで花開くものなのだという事に気づかせてくれました。日本語を通して人々を繋ぐことができるような人になりたいという想いを胸に、これからの2年間で充実したものになるよう努力したいと思っています。

今、私の目には、世界中から集まった、志を持つ凛々しい人達が映っています。私たちの心は、これからはじまる本学での生活への期待に弾んでいます。楽しい時だけでなく、困難や壁にぶつかる時もあると思います。しかし、それらすべては必ず糧となって、私たちを支えてくれるはずです。この素晴らしい環境で、皆さんと切磋琢磨しながら過ごすこれからの日々は、私たちの人生の中でも一際輝く時間となることでしょう。今日から本学で様々なことを学び経験し、それぞれの夢や目標を実現させた皆さんに会う近い将来が、今から楽しみでなりません。